

昭和五年一月提出

昭和四年度_二於_二水稲新品種育成試驗經過概要

新潟縣農事試驗場

目次

(四)	(三)	(二)	(一)	(九)	(八)	(七)	(六)	(五)	(四)	(三)	(二)	(一)	
標準栽培二依 _ル 雜種第四代以後系統育成試驗	排水不良栽培二依 _ル 雜種第三代系統及個體選拔試驗	多肥栽培二依 _ル 雜種第三代系統及個體選拔試驗	標準栽培二依 _ル 雜種第三代系統及個體選拔試驗	排水不良栽培二依 _ル 雜種第二代個體選拔試驗	多肥栽培二依 _ル 雜種第二代個體選拔試驗	標準栽培二依 _ル 雜種第二代個體選拔試驗	雜種第一代養成	交配操作	排水不良栽培二依 _ル 交配用品種選定試驗	多肥栽培二依 _ル 交配用品種選定試驗	試驗操作	各試驗栽植標準	耕種梗概
一八	一六	一五	一三	一二	九	八	七	七	四	一	一	一	一

(一)	多肥栽培	二	依ル	雜種	第四代以後系統育成試驗	二九
(二)	排水不良栽培	二	依ル	雜種	第四代以後系統育成試驗	二九
(三)	標準栽培	二	依ル	雜種	第四代以後系統育成試驗	二九
(四)	多肥栽培	二	依ル	未固定系統	生產力檢定試驗	二四
(五)	排水不良栽培	二	依ル	未固定系統	生產力檢定試驗	二四
(六)	標準栽培	二	依ル	未固定系統	生產力檢定試驗	二四
(七)	多肥栽培	二	依ル	新品種	決定試驗	二八
(八)	排水不良栽培	二	依ル	新品種	決定試驗	二八
(九)	標準栽培	二	依ル	新品種	決定試驗	二八
(十)	多肥栽培	二	依ル	新品種	決定試驗	二八
(十一)	排水不良栽培	二	依ル	新品種	決定試驗	二八
(十二)	特殊試驗	二	依ル	新品種	決定試驗	二八

(一) 耕種梗概
昭和四年年度本試驗設計ノ場合ニ準ズ

(二) 各試驗栽植標準
昭和四年年度本試驗設計ノ場合ニ準ズ

(三) 試驗操作
本者指定水稻新品種育成ニ関スル試驗方法ニ準據シテ施行セルモ多少異リタル操作ヲ行ヒタルモノアレバ其試驗ノ項ニ異リタル点ヲ記載セリ

(四) 目的
多肥栽培ニ依ル交配用品種選定試驗
耐肥力強キ優良ナル新品種ノ育成ニスベキ
交配用母本ヲ選定セントス
供用面積 多肥栽培已六畝ニテ標準栽培已三畝ニテ

- 三、供試品種數六十四品種
- 四、試驗區多肥栽培區 一區 二區 五坪 (四畦)
- 五、標準區 十一區 每區一區ノ挿入ス
- 六、標準栽培ノ耕種梗概ト異ル事項

七、試驗經過ノ概要

肥料名	元肥	追肥	合計	三要素	備考
堆肥	50.0	10.0	60.0		追肥ハ強過磷酸
大豆粕	50.0	10.0	60.0		石灰及硫酸四貫
硫酸安母尼亞	40.0	60.0	100.0	窒素5.20	ラニ番除草ノ際
蒸製骨粉	80.0	10.0	90.0	燐酸3.20	ニ施シ其ノ後更ニ
強過磷酸石灰	10.0	30.0	40.0	加里4.00	硫酸ニ貫テ施用
硫酸加里	25.0	10.0	35.0		セリ
葉灰	20.0	10.0	30.0		

本試驗ニ於ケル多肥栽培區ノ生育經過ハ出穂前項迄ハ標準栽培区ニ比シ葉色濃ク分葉多ク生育軟弱ノ状態ヲ呈シ其後稍々強固ト

ナリシモ成熟期ニ近ヅキ相当^新倒伏^ニ殊ニ晚稲ハ降雨ノ影響ヲ受テ其程度大ニシテ極晚セルハ早冷ノ夕メ成熟不充分ニテ殆ンド直立セルモノ多カリキ

故ニ倒伏難易ノ判定ニハ調査ノ結果ニ對シ熟期ノ早晚ニ孰キ大ニ考慮スベキ必要ヲ認メタリ

病蟲害ハ蠶食ノ少ク復生セルト晚稻ニ稻麴菌ノ發生セルニ過ギズシテ耐病性判定ノ參考トナラザリキ

耐肥性品種ノ選抜ニ就キテハ圃場觀察ノ結果及ビ標準栽培区ト多肥栽培区ニ於ケル成績比較トニ依リ大体右記ノモノヲ優良ト認メタリ

比較的短稈ニシテ
熟期早ク
分葉多ク
分蘖多ク

早熟	香號	品種名	取
九六	里	不知	山形縣
九四	京錦三號		山形縣農試
二	陸羽四二號		秋田縣農試

中生	九五、銀坊主早生	富山縣農試
三九、常	豐	淡城縣農試
一、刈羽神種	當	當
五六、園取新三四號	當	群馬縣農試
一、銀坊主中生	當	當
二三、興三次郎	當	富山縣
三五、群馬銀坊主	當	群馬縣農試
三一、富山銀坊主	當	富山縣農試
一、改良美濃坊主	當	當
八五、丹後中福一號	當	京都府農試
八七、北部二號	當	島根縣農試

一、目的 (五)
 排水不良栽培ニ依ル交配用品種選定試驗
 排水不良地ニ適スル優良ナル新品種ノ育成
 二、供用面積
 排水不良栽培區 四畝二十步
 標準栽培區 三畝步

三、供試品種數 四十八品種
 排水不良栽培區 一區二五坪 (四畦)
 標準栽培區 一區一八七五坪 (三畦)

四、試驗已
 五、標準區
 六、標準栽培
 排水不良栽培區ニ於テハ移植後一番除草迄、
 排水不良栽培區ニ於テハ移植後一番除草迄、
 排水不良栽培區ニ於テハ移植後一番除草迄、

七、試驗經過

本試驗ニ於テハ排水不良栽培區ノ生育經過
 八、標準栽培區ニ於テハ排水不良栽培區ノ生育經過
 深クモシテ、漸次減少セシモ成熟期ニ於テ標
 後此状態ハ漸次減少セシモ成熟期ニ於テ標
 準栽培區ノモ、比シテ稈長稍々長ク穂數少
 一、穂重減少セリ
 故ニ排水不良品種ノ選拔ニ當リテハ圃
 場觀察ノ結果及ビ排水不良栽培區ト標準裁

大り、穂數減少ス

① 多蘆性

本年の成績より、秋田県地方
が標準栽培法に收量に差
が有る事あり

培区トノ比較成績トニヨリ排水不良栽培区
ニ於テ稈ノ伸長歩合小ナルモ、穂重大ニシ
テ穂重ノ減少歩合小ナルモノ穂数減少歩合
小ナルモノ等ノ特性ヲ具備セルモノヲ以テ
シ大体左記ノモノヲ優良ト認メタリ

熟期	早生	中生	晩生
番號	一	二六	二二
品種名	在来小田珍光	中稲新愛國	昭和錦
取寄先	当場	秋田縣農試	富山縣農試
備考	早稲二本三	籾内早稲五七號	銀坊主中生
備考			銀坊主選
備考			白玉
備考			新二本
備考			三五 群馬銀坊主
備考			七四 福井塩田
備考			福井縣農試

新 新
七 六

(六)

交配操作
本年年度成功セル交配組合ハ五十七組合ニシ
テ總テノ組合ハ西親品種間ノ出穂相違セル
夕ノ七時間刻ノ短日法ヲ採用シ「母品種ノ出
穂期」ヨリ「父品種ノ自然状態」ノ出穂期迄促進セ
シメ其目的ヲ達シ得タリ
尚本年年度ハ右ノ外多数ノ交配ヲ行ヒ結實セ
ルモ、麦蛾タメ喰害セラレ結實歩合ノ如キモ
例年ニ比シ著シク減少セリ

(七)

雑種第一代養成
本年年度播種セルモノ四十一組合三百九十八
粒ニシテ例年ノ如ク普通試験ノモノニ比シ
約二十日播種期ヲ遅ラセシニ拘ラズ播種後
氣温低下シタリタメ、発芽遅延セラレ細菌ノ叢
生スル等アリシタメ、発芽セルモノ僅ニ二十
八組合九十一粒ナリキ

故ニ来年度ヨリハ温度ノ急変ヲ避クルヲ
 温室内ニ於テ発芽セシムルト共ニ川砂ヲ廢
 シ消毒セル土壤ヲ用ヒ発芽ヲ良好ナラシメ
 ントス

一 目的 (ハ)

標準栽培ニ依ル雜種第二個体選抜試験
 地方標準栽培ニ適スル優良ナル新品種ヲ育
 成セシガタメ交配ヲ行ヒタル雜種第二個体
 ヨリ有望ナル個体ヲ選抜セントス

二 供用面積、三畝歩
 三 供試材料数、五組
 四 試驗經過、概要

本試驗ニ於ケル各組合ノ生育經過ハ概シテ
 良好ナリシモ晩生型ノモ、ハ出穂遲延セラ
 レ稈徒長ノ嫌アリ
 選抜ハ出穂稈長等ノ乖離ノ程度甚シキ組合
 ニ於テハ先ヅ第一選抜トシテ圃場選抜ヲ
 行ヒ其他ノ組合ニ於テハ全部株選抜シテ
 本年選抜概要次ノ如シ

内ニ於テ稈長穂長等ニ就キ第一選抜ヲ行
 ヒ更ニ個体調査ノ結果第三選抜ヲ行ヒ
 リ本年選抜概要次ノ如シ

◎

支配	番號	組合		栽植第一第二第三選抜株數					
		母	父	株數	次選抜	次選抜	早莖中莖晚莖	合計	
新二交二	一四、無世愛國四号	一報德	一電尾一號	六六〇	一六〇	九九	三	三八	三〇
全一	一改良愛國	一電尾一號	一電尾一號	七二〇	七二〇	一二二	一	七七	一八〇
全一	一改良愛國	一三新一號	一三新一號	一〇八〇	一〇八〇	二〇六	一	四八	一六〇
全一	一銀坊主	一陸羽三三號	一陸羽三三號	一五〇〇	二五〇	一八八	一	三〇	二〇
全二	一銀坊主	一四、京錦一號	一四、京錦一號	一八〇〇	二五五	一五七	一	三五	二〇
計	五組			五七〇	二四七	七二〇	三	三二	八一
								一三八	三三
								一三五	三三

一 目的 (九)

多肥栽培ニ依ル雜種第二個体選抜試験
 耐肥力強キ優良ナル新品種ヲ育成センガタ
 メ交配ヲ行ヒタル雜種第二個体中ヨリ有望
 ル個体ヲ選抜セントス

二 供用面積、六畝二十歩

三、供試材料、九組
四、標準栽培
又、施肥量、概ト異ル事項

肥料名	元肥	追肥	合計	三要素	備考
堆肥	3000	1	3000		追肥ハ二番除草 際ニ施用セリ
大豆粕	2000	1	2000		
硫酸安母尼重	200	200	400	窒素 300	
蒸製骨粉	80	1	80	磷酸 300	
強過燐石灰	1	300	300	加里 400	
硫酸加里	25	1	25		
葉灰	200	1	200		

三、試驗經過

本試驗ニ於ケル各組合ノ生育經過ハ出穂前頃迄ハ標準栽培区ノモ、ニ比シ葉色濃ク、分葉多ク、稈稍々徒長軟弱ノ状態ヲ呈シ、熟期ニ至リ相当倒伏シ各組合ノ倒伏難易ハ比較的顯著ニ現レタリ

選抜ハ出穂期稈長等ノ分離ノ程度甚シキ組

合ニ於テハ先ヅ第一次選抜ト新ニシテ早晚各型別ニ圃場選抜ヲ行ヒ其他ノ組合ハ全部株選抜シテ室内ニ於テ稈長穗數等ニ就キ第二次選抜ヲ行ヒ更ニ個體調査ノ結果第三次選抜ヲ行ヒタリ

本年度ノ選抜概要次ノ如シ

交配	番號	組		株數	選抜			合計
		母	父		第一次	第二次	第三次	
全一〇	一四 愛國四號	陸羽三號	陸羽三號	200	150	50	5	355
全六	一川羽神種	小田珍光	小田珍光	500	400	100	1	501
全三〇	名三新イ號	改良愛國	改良愛國	1200	1000	200	1	1201
全七〇	名三新イ號	一川羽神種	一川羽神種	900	800	100	1	901
全五	一愛國七〇號	陸羽三號	陸羽三號	500	400	100	1	501
全四	一亀尾二號	改良美濃	改良美濃	1200	1000	200	1	1201
全三〇	名三新イ號	銀坊主	銀坊主	1800	1500	300	1	1801
全二〇	一銀坊主	孟京錦一號	孟京錦一號	1200	1000	200	1	1201
全二〇	一銀坊主	陸羽三號	陸羽三號	1800	1500	300	1	1801
計								

一 目的

地方標準栽培ニ適スル優良ナル新品種ヲ育成セシムルガため雜種第三代中ヨリ有望ナル系統及個体ヲ選抜セントス

個体選抜試験

二 供用面積 五畝五歩
 三 供試材料数 二組 百六十系統
 四 試驗經過ノ概要

本試驗ニ於ケル各系統ノ生育經過ハ概シテ良好ニシテ一般ニ本試驗供試ノ各系統ハ早生種ニシテ品質良好有望ナルガ如シ本年度ノ選抜概要次ノ如シ

早熟	多收	良質	種目的	主要育		系統	選抜系統数	選抜個体数	備考
				支配	番號				
計	全	奥羽二號	大場早	母	父	系統	選抜系統数	選抜個体数	備考
				萬石	陸羽三三號	系統	選抜系統数	選抜個体数	備考
						早生	1	1	有望
						中生	1	1	
						晚生	1	1	
						合計	3	3	
						早生	1	1	
						中生	1	1	
						晚生	1	1	
						合計	3	3	

(二)

多肥栽培ニ依ル雜種第三代系統及個体選抜試験

一 目的

耐肥力強キ優良ナル新品種ヲ育成セシムルため雜種第三代中ヨリ有望ナル系統及個体ヲ選抜セントス

二 供用面積 一及九畝二十歩
 三 供試材料数 八組四百二十系統
 四 標準栽培ノ耕種梗概ト異ル事項

多肥栽培ニ依ル雜種第二個体選抜試験ノ場合ニ準ズ

五 試驗經過

本試驗ニ於ケル各系統ノ生育經過ハ出穂前頃迄ハ標準栽培ニ準ズ、モ、ニ比シ葉色濃ク、葉多ク、莖葉徒長軟弱ノ状態ヲ呈シタリシガ、其後漸次強剛ナル生育ヲ遂ゲタリ、然レドモ成熟期ニ近ヅキテ系統ニ依リテハ倒伏甚シキモノヲ生ジタリ

計 三 組
五 〇 一 九 一 〇 一 一 一 一 一 一

(四) 標準栽培ニ依ル雜種第四代以後

一 目的
地方標準栽培ニ適スル優良ナル新品種ヲ育成セシムガためニ選抜セル雜種第四代以後ハ系統ノ固定ヲ計ラントス

二 供用面積ハ畝ニ百四十五系統ニ百四十五系統
三 供試材料數六組ニ百四十五系統
四 試驗經過ノ概要

主要育種目的	支配世	組	栽培系統群數	選拔系統數	備考
良厚多収	F4	上州	系統數 特殊 早生型 中生型 晩生型 合計	特殊 早生型 中生型 晩生型 合計	
全	全	行成	一五	一	備考
全	全	保一村	一	一	
全	全	選一	一	一	

本試驗ニ於テ各系統ノ生育經過ハ概シテ良好ナリキ
本年選拔概要次ノ如シ

主要育種目的	支配世	組	栽培系統群數	選拔系統數	備考
良厚多収	F5	陸羽三三號	系統數 特殊 早生型 中生型 晩生型 合計	特殊 早生型 中生型 晩生型 合計	精不望
全	全	陸羽三三號	三〇	一	有望
全	全	陸羽二三號	三〇	一	有望
全	全	酒井金子	三〇	一	有望
全	全	陸羽一三三號	一〇	一	有望
全	全	神龜三三號	二四	一	有望
全	全	計	六組	一〇	

(五) 多肥栽培ニ依ル雜種第四代以後

一 目的
肥力強ニ優良ナル新品種ヲ育成セシムガためニ選抜セル雜種第四代以後ハ系統ノ固定ヲ

計ラントス

二 供用面積ハ畝ニ百三十系統
三 供試材料數十組
四 標準栽培ニ依ル雜種第四代以後

多肥栽培ニ依ル雜種第四代以後

五、試驗經過

場合ニ準ス

本試驗ニ於ケル各系統ノ生育經過ハ多肥栽培ニ依ル雜種第二個體選抜試驗ノ場合ト同様ニシテ各系統ノ倒伏難易ハ相當顯著現レタリ

本年夏選抜概要次ノ如シ

主要育種目的	支配番號	世代	組		栽培系統群數	選抜系統數	備考
			母	父			
耐肥性多 良質早熟	奧三系	F4	神龜四號	新イ号	系統數 早種 1 中種 1 晚種 1 合計 3	選抜系統 早種 1 中種 1 晚種 1 合計 3	
耐肥性多 良質早熟	鴻三系	F5	竹成	保升	系統數 早種 1 中種 1 晚種 1 合計 3	選抜系統 早種 1 中種 1 晚種 1 合計 3	
耐肥性多 良質早熟	全	全	上州	中稻神力	系統數 早種 1 中種 1 晚種 1 合計 3	選抜系統 早種 1 中種 1 晚種 1 合計 3	
耐肥性多 良質早熟	全	全	早穂増	衣新A	系統數 早種 1 中種 1 晚種 1 合計 3	選抜系統 早種 1 中種 1 晚種 1 合計 3	
耐肥性多 良質早熟	全	全	信州金子	愛國	系統數 早種 1 中種 1 晚種 1 合計 3	選抜系統 早種 1 中種 1 晚種 1 合計 3	
耐肥性多 良質早熟	全	全	関取	愛國d	系統數 早種 1 中種 1 晚種 1 合計 3	選抜系統 早種 1 中種 1 晚種 1 合計 3	
耐肥性多 良質早熟	全	全	早稲神力	愛國	系統數 早種 1 中種 1 晚種 1 合計 3	選抜系統 早種 1 中種 1 晚種 1 合計 3	
耐肥性多 良質早熟	全	全	穀良都	愛國	系統數 早種 1 中種 1 晚種 1 合計 3	選抜系統 早種 1 中種 1 晚種 1 合計 3	
耐肥性多 良質早熟	全	全	新イ号	陸羽三号	系統數 早種 1 中種 1 晚種 1 合計 3	選抜系統 早種 1 中種 1 晚種 1 合計 3	

主要育種目的	支配番號	世代	組		栽培系統群數	選抜系統數	備考
			母	父			
耐肥性多 良質早熟	鴻三系	F4	陸羽二〇号	石白	系統數 早種 1 中種 1 晚種 1 合計 3	選抜系統 早種 1 中種 1 晚種 1 合計 3	

(六) 排水不良栽培ニ依ル雜種第四代以後系統育成試驗

排水不良地ニ適スル優良ナル新品種ヲ育成セシガタメノ選抜セル雜種第四代以後ノ系統

ノ固定ヲ計ラントス

- 一、目的
- 二、供用面積。二反二畝步
- 三、供試材料數。四組二百三十系統
- 四、標準栽培ノ耕種梗概ト異ル事項

排水不良栽培ニ依ル交配用品種選定試驗ノ場合ニ準ス

五、試驗經過ノ概要
本試驗ニ於ケル各系統ノ生育經過ハ排水

昭和十一年... 稲作... 肥料...

計	六組	四一	二九
---	----	----	----

一、目的 (一) 多肥栽培ニ依ル未固定系統生産力檢定試験
 而肥力強キ優良ナル新品種ヲ育成センガ
 ヲ選抜セル略之固定ノ未固定系統ニ就キ収
 量調査ヲ行ヒ以テ新品種決定試験ニ供用ス
 ベキ系統ヲ選定セントス

二、供用面積 一反歩
 三、供試材料数 七組 二十九系統
 四、試験区 一區面積五坪一區制
 五、標準栽培 試驗区五區ニ一區ヲ挿入ス
 六、標準栽培 反當施肥量九ノ如シ

肥料名	元肥	追肥	合計	三要素量	備考
堆肥	三〇〇	一〇	三〇〇	窒素 四三〇	追肥ハ過燐酸石
大豆粕	二〇〇	一〇	二〇〇	燐酸 三六〇	及硫酸ニ貴
硫酸安母尼重	二〇	四〇	六〇	加里 四一〇	ラニ番除草際
蒸製骨粉	八〇	一〇	九〇		施用シ其後夏

七、試験經過ノ概要

本試験ニ於テル各系統ノ生育經過ハ標準栽培
 培ノモ、ニ比シ出穂期前頃迄ハ葉色濃ク分
 葉多ク徒長軟弱ノ状態ヲ呈シリシガ其後
 稍之強剛ノ生育ヲ遂ゲシモ成熟期ニ至リ相
 當倒伏セルモノヲ生ジタリ
 本年夏、供試系統及選抜系統數等次ノ如シ

肥料名	元肥	追肥	合計	三要素量	備考
強過燐酸石灰	一	三〇	三〇		ニ硫酸ニメラ施
硫酸加里	二五	一	二五		用ス
葉灰	二〇〇	一	二〇〇		

支配番号	世代	組	文	合	試驗年次	供試系統數	選抜系統數	備考
鴻七支一	F ₁₁	愛國	富	二年目	一	一	一	
鴻八支一	F ₁₀	晚三三號	大場早	全	二	一	一	
鴻一〇支一	F ₈	無世愛國	早稻神力	全	一	一	一	
奧一〇支一	全	陸羽二六號	森田早稻	全	六	四	四	
全	全	陸羽一五號	陸羽四二號	全	四	四	四	

鴻三交一	全	選	早稻袖刀	愛國	全	二九	一八
鴻二交一	全	上	愛國	一年目	七	二	二
鴻一交一	全	選	愛國	全	四	二	
計							
九組							

一 目的 (元)

排水不良栽培ニ依ル未固定系統生産力檢定試験
排水不良地ニ適スル優良ナル新品種ヲ育
成センガタメ選拔セル略々固定、未固定系
統ニ収量調査ヲ行ヒ以テ新品種決定試験ニ
供用スベシ系統ヲ選定セントス

二 供用面積、一又四畝
三 供試材料數、十組、五十一系統

四 試驗區、一區面積五坪(八畦) 一區制
五 標準區、試驗區五區各一區ヲ挿入ス

六 標準栽培、耕種模範ト異ル事項
排水不良栽培ニ依ル交配用品種選定試験ノ

七 試驗經過ノ概要

本試驗ニ於ケル各系統ノ生育經過ハ排水不
良栽培ニ依ル交配用品種選定試験ノ場合ト
殆ド同様ナルモ概シテ良好ナリキ
本年度ノ供試系統及選拔系統數等次ノ如シ

新新
二七

交配番號	世代	組	文	試驗年次	供試系統數	選拔系統數	備考
鴻八交一	五	陸羽一三五号	大場早	三年目	五	四	有望
鴻七交一	五	陸羽一六号	陸羽四二号	二年目	三	一	
全	全	陸羽一六号	森田早稻	全	二	一	
全	全	陸羽一六号	酒井金子	全	二	二	
全	全	東郷Ⅲ	陸羽二〇号	全	二	一	
全	全	森田早稻	早稻大野	全	六	二	
鴻二交一	五	選	竹成	全	四	三	
全	全	陸羽二三号	白河五号	全	五	二	
鴻一交一	五	成	荒木	一年目	一	一	

	全	全	奥二支一	奥二支一					
	全	全	F8	F6					
計	陸羽一三號	蕙	二十日早稻	白河五号					
一四組	酒井金子	陸羽一三號	陸羽一三號	二十日早稻					
	全	全	全	全					
	五	八	八	二	二				
	二八	五	六	一	一				
		稍有望	稍有望						

一、目的 (一)

標準栽培ニ依ル新品種決定試験
 標準栽培ニ依ル新品種決定試験
 標準栽培ニ依ル新品種決定試験
 標準栽培ニ依ル新品種決定試験
 標準栽培ニ依ル新品種決定試験

二、供用面積、三畝十步
 三、供試材料數、三組 六系統
 四、供試面積、五坪(八畝) 二區制
 五、標準已 試驗經過ノ概要
 六、試驗經過ノ概要

新 二八

本試驗ニ於ケル各系統ノ生育經過ハ概シテ

	全	全	奥〇支一	番配	交配
	全	全	F8	代世	世
計	陸羽一三號	陸羽一三號	陸羽一三號	母	組
三組	陸羽一三號	酒井金子	森田早稲	父	合
	大	一	二	三	供試系統數
	四	一	一	二	選抜系統數
					備
					考

一、目的 (二)

多肥栽培ニ依ル新品種決定試験
 多肥栽培ニ依ル新品種決定試験
 多肥栽培ニ依ル新品種決定試験
 多肥栽培ニ依ル新品種決定試験
 多肥栽培ニ依ル新品種決定試験

二、供用面積、三畝十步

三 供試材料数 一組 六系統
 四 試験区 面積五坪(八畦) 二区制
 五 標準区 試驗区 每区一區ヲ挿入ス
 六 標準栽培ノ耕種梗概ト異ル事項
 多肥栽培ニ依ルホ固定系統生産力檢定試験
 場合ニ準ズ

七 試験経、概要

本試験ニ於ケル各系統ノ生育經過ハ出穂前頃迄ハ標準栽培ノモノニ比シ葉色濃ク分蘖多ク積々軟弱ノ状態ヲ呈シタリシガ其後積々強剛ノ生育ヲ成シタリ
 然レドモ成熟期ニ至リテ系統ニ依リテハ倒伏甚シキモノヲ生ジタリ
 本年度ノ供試系統及選抜系統数等次ノ如シ

支配	番號	世代	組	合	供試選抜	備考
東郷	陸取	ニ	六	四		
奥	下					

新新 三〇

一 目的 (二)
 特殊試験
 育成系統稻熟病耐病性檢定試験
 新品種決定試験及ホ米固定系統生産力檢定
 試験ニ供セル育成系統ノ稻熟病ニ対スル
 耐病性ノ強弱ヲ檢定セントス

二 供試材料数 百十系統

(1) 直播短日法 二依ル方法
 五万歩ノ一又歩ポット一個ニ対シ五〇粒

内播種量 七月十三日 一ポット当リ 硫酸一五五 過石一五 硫加〇五五
 内播種期 各系統三ポット
 内施肥量 自八月十日 至十五日 日中七時間ニ短縮ス
 内区制 自八月十日 午後四時 至十七日午前九時(聖時) 全日光線ヲ遮断ス
 内短日法 自八月十日 午前九時 至十九日午前九時 全日光線ヲ遮断ス

(2) 移植短日法ニ依ル方法

(3) (イ) 播種期 四月二十八日 普通苗代ニ播種ス
 (ロ) 移植期 六月二十日
 (ハ) 栽植本数 各ホット 三本植
 (ニ) 施肥量 一ホット 当リ 硫酸一五瓦 過石一瓦 硫酸〇五瓦
 (ホ) 区制 各系統 三ホット
 (ヘ) 短日法 自七月十日 日中七時間ニ短絡ス
 (イ) 播種期 第一回 六月一日 第二回 七月十日
 (ロ) 播種粒数 一ホット 当リ 五十粒
 (ハ) 施肥量 一ホット 当リ 硫酸一瓦 過石一瓦 硫酸〇五瓦
 (ニ) 播種 第一回 六月二十五日 第二回 八月五日
 第一回 八四ヶ原田杉枝師培養ノ箇ヲ馬鈴薯寒天培養器ニ移植シ移植後二十一日ノモノ十七本ヲ三百CCノ蒸溜水ニ溶解シ室内ニ於テ撒布シ二日間黒布ヲ以テ覆フ第二回 八四ヶ原田杉枝師培養ノモノ當場培養ノモノ及ビ蒸溜水散布ノ三區ニ分チ西ヶ原培養ノモノ八五十本當場培養ノモノ

四

(1) 試験經過ノ概要

八七十本ヲ各三百CCノ蒸溜水ニ溶解シニ十四時間光線ヲ遮断ス

(2) 移植短日法ニ依ル方法
 本法ニ依ルモ、ハ殆んど発病セガリキ
 故ニ未年度ハ更ニ施肥量ヲ増加スルト共ニ日照時間ヲ変更シ試験ヲ行フノ要アリト認ム

(3) 接種ニ依ル方法
 本法ニ依ルモノハ僅ニ発病セルニ過ギス且ツ接種区ト無接種区トノ差明ナラザルガ如キ程度ナリシヲ以テ各系統ノ耐病性査定ノ参考トナラザリキ

故 = 米年度ヨリハ更 = 接種 = 際シ注意ヲ掛
フト同時 = 破子室内ニ於テ試験ヲ施行セ
トス

新

三三